

■発行

国立大学法人群馬大学
ダイバーシティ推進センター

〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町4-2
TEL: 027-220-7146
FAX: 027-220-7143
mail:kyodo-sankaku@jimu.gunma-u.ac.jp
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/



2020.11

vol.24

着任のご挨拶

ダイバーシティ推進センター 教授

林 はるみ



この度、本年10月1日付でダイバーシティ推進センターに着任いたしました。自宅のある新潟市と前橋市を行き来する生活を始めて4年目となります。本学着任前は群馬県立県民健康科学大学の看護学部で勤務しておりました。助産師として臨床経験が長く、専門は母性看護学でウイメンズヘルスやリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関心を寄せています。不妊で苦悩するカップルにもたくさん出会ったことから、生殖補助医療を受けるカップルへの支援が研究テーマとなりました。学会認定の不妊カウンセラーとして20年経ち、現在も地域で妊活相談を担当しております。

JST事業のプロジェクトについては、2008年から新潟大学で特任助教として「女性研究者支援モデル育成」、その後に准教授として「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」など、9年ほど専任で担当して参りました。後輩の育成に関わるためにいったんJST事業から離れ、そのことにより改めて大学における男女共同参画やダイバーシティ推進の意義を再確認するとともに、馴染みのない方々にはこうした活動が具体的にイメージしにくいものであることを再認識いたしました。そこで私は、大学の構成員はじめ、社会の人々がこうした意識を醸成すると何がどのように変わるのか具体的に言語化し、本学のみならず群馬県内の大学や企業などでもダイバーシティを推進する意義を理解していただけるように活動したいと考えております。

群馬大学では、JST事業「まゆだまプラン・アドバンス」のプロジェクトが残り2年となりました。より一層のダイバーシティの推進ならびに浸透、定着を図るために、関係各位の皆様方のお力添えをいただきながら、「しなやかに」をモットーに尽力したいと考えております。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

ダイバーシティ推進センターの
ロゴマークが決定しました

この度、ダイバーシティ推進センターのロゴマークが決定しました。

ロゴマークのデザインは、共同教育学部美術教育講座から提案された8作品のうち、ダイバーシティ推進センター運営委員の投票により、共同教育学部美術専攻3年生の高草木音子さんの作品が選ばれました。今後、このロゴマークを様々なシーンで活用し、本学のダイバーシティに関する取り組みを推進してまいります。



【デザインコンセプト】

男女共同参画等職場改善の推進というところから、全体的に右肩上がりの構図と明るい色合いが向上をイメージさせるデザインとした。マークの構成要素は働く「人」となっており、共に進んでいくような構成と、男女に加え多様な人々が参加していることを示す色を使用した。また、人の胴体をイメージして構成したオレンジ色の部分は、群馬大学の組織を表す「G」とも読み取れるような構図になっている。



群馬大学「ぐんま輝く女性支援賞」受賞

群馬大学は、「ぐんま輝く女性支援賞」を受賞し、6月29日に群馬県庁において開催された表彰式に平塚学長が出席しました。

「ぐんま輝く女性支援賞」は、政策・方針決定過程に参画し主導的立場を担っていくことにチャレンジしている女性に積極的な支援を行っている団体を、群馬県知事が表彰する制度で、女性活躍の身近なモデルを示すことにより、すべての女性が輝く環境づくりを進め、男女共同参画社会の形成を推進することを目指すものです。



本学では、男女共同参画社会の実現に向けて、大学が果たすべき責務を具体化するため、学内に『男女共同参画推進室（現ダイバーシティ推進センター）』を設置し、女性研究者が活躍しやすい環境づくりと女性教職員の登用、育成に継続的に取り組み、成果を上げています。また、県内16の大学・高専が参加する『ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク』の構築・運営を行うなど、学内にとどまらず本県の女性活躍を後押ししており、こうした取組が高い評価を得て、今回の受賞となりました。



群馬大学「輝く女性研究者推進賞

(ジュンアシダ賞)」受賞

群馬大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が創設した、第2回「輝く女性研究者賞（ジュンアシダ賞）」の「輝く女性研究者活躍推進賞（機関受賞）」を受賞しました。同賞は、JSTが推進する女性研究者活躍のための取り組みとして、女性研究者の活躍を推進している機関を表彰する制度で、今回は、12件の応募の中からみごと本学が選ばれました。

本学の「理工学府女性限定公募」や「医学系上位職ポストアップシステム」、女性研究者に対する「大学独自の研究費助成」、「ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク」の構築・運営など、長年にわたる地道な取り組みが認められました。また、その結果、女性研究者や理工学府博士後期課程における女子学生の割合が大きく増加したことや、支援の継続に関する効果を詳細に分析し、支援の意義の裏付けを示すことが「女性研究者の研究力に関する無意識のバイアスの是正」につながっているとして、審査員から高い評価を受けました。

授賞式は、令和2年11月15日に東京の日本科学未来館で開催され、平塚学長が賞状と賞牌を授与されました。当日は平塚学長のほか、輝く女性研究者賞受賞者である坂井南美氏、星野歩子氏を交えて、高校生を中心とした次世代とのトークセッションも行われました。



群馬大学の女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を策定

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく行動計画

女性教職員もその能力を存分に発揮し活躍でき、誰もが快適に働ける職場環境を作り、学内の男女共同参画を一層推進するために、次のような行動計画を策定する。

1. 計画期間 令和2年4月1日～令和4年3月31日までの2年間
2. 内容

目標1 教員に占める女性比率20%以上を確保する

《対策》令和2年度から女性教員採用促進にむけて、学系ごとの目標値を定めた採用計画に引き続き取り組む。

目標2 役員に占める女性比率12.5%以上を確保する

《対策》令和2年度から先進的な取組をする関係機関の女性役員等を講師に招き、研修を実施する。

目標3 管理職に占める女性比率14.3%以上を確保する

《対策》令和2年度から女性職員(非常勤職員を含む)のリーダーシップやキャリアデザインに関する研究を実施する。

目標4 仕事と子育てや介護を両立するための職場環境の充実を図る

《対策》令和2年度からダイバーシティ推進センターやまゆだま広場での支援を充実させる。

目標5 所定外労働の削減を図る

《対策》令和2年度から教職員に所定外労働の削減に資する研修を実施するとともに会議等を通じて管理監督者及び教職員に所定外労働削減に関する意識啓発を図る。

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画

教職員が仕事と子育てを両立させることができるための支援を行い、働きやすい環境を作ることによって、全ての教職員がその能力を存分に発揮できるようにするため、次のような行動計画を策定する。

1. 計画期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日までの5年間
2. 内容

目標1 仕事と子育てや介護を両立するための職場環境の充実を図る

《対策》令和2年度からダイバーシティ推進センターやまゆだま広場の更なる周知を行い、支援を充実させる。

目標2 所定外労働の削減を図る

《対策》令和2年度から教職員に所定外労働の削減に資する研修を実施するとともに会議等を通じて管理監督者及び教職員に所定外労働削減に関する意識啓発を図る。

目標3 子育て中の人にやさしい職場環境を整備する

《対策》令和2年度から男性が育児休業等の制度を取得する際に障害となる要因を調査し、改善策を検討・実施する。



ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク会議開催

令和2年10月12日(月)、第8回ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク会議が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、zoomを利用したオンライン会議となり、各会員機関代表者12名、本学内5名が出席しました。まず、自己紹介から始まり、各会員の情報共有事項(教員、職員、学生の女性比率や女性の活躍を促す取組など)の説明、シーズ集(県内の女性研究者による研究成果の紹介)の現状、「群馬大学ダイバーシティ推進センター設立記念シンポジウム」の案内や群馬県からの資料の案内がありました。また、嶋田会長(本学)からは、本学が実施している地域貢献事業の説明があり、アイデア(講演会やアンケートなど)の提案依頼及び、関心を持った会員と一緒に事業をしたいとの協力依頼がありました。来年度の開催校は群馬県立女子大学となりますが、会議形式は来年度の状況によって判断することとなりました。



第10回研究力アップ講座 大学教職員のためのzoom活用セミナー開催

6月25日(木)に開催された「大学教職員のためのzoom活用セミナー」では、専門知識が豊富でパワフルな講師により、効果的な講義やワークを行うためのzoom活用術が紹介・説明されました。その際、インタラクティブな講義が重要であること、講義時のホストの目線や表情、仕草が受講者に与える影響が大きいこと等が強調されていたのが印象的でした。そして、バーチャル背景、チャット、ホワイトボード、画面共有などの比較的なじみの深い機能から始まり、ブレイクアウトセッションや投票(アンケート)、さらには、Google JamboardやGoogleスライドなどの他のクラウドサービスと組み合わせることで、より高度なグループワークが実現できることを学ぶことができました。特に、ブレイクアウトセッションと投票(アンケート)の機能を高度に使いこなせるようになれば、対面授業以上の学習効果をzoom授業で得ることができるとも思いました。今後、zoom授業はもはや単なる対面授業の代替手段ではなく、重要な教育ツールの一つになることは間違いないでしょう。今回、残念ながら参加者は95人とどまりましたが、「参加しない人はもったいないな」と思わせてくれる有意義なセミナーでした。配布された骨太でわかりやすい資料は、今後とも活用していきたいと考えます。続編のセミナー開催も検討していきます。

